

# 入間川地区中学校統廃合意見交換会報告

## 【対象：東中学校保護者】

- 1 開催日時  
平成 24 年 9 月 23 日（日） 10 時～12 時 20 分
- 2 開催場所  
東中学校 2 階会議室
- 3 参加人数  
27 人
- 4 市職員（計 5 名）  
生涯学習部長、次長兼教育総務課長、学校統廃合担当課長、学校統廃合担当主任  
学校教育部参事兼教育指導課長
- 5 配布資料
  - ◆ 統廃合に伴う学区の見直し案
  - ◆ 対照表

### ——— 主な質疑応答及び意見要望 ———

#### 統廃合検討協議会・部会に関すること

- Q P T A 会長というだけで保護者の代表としての意見を求められ、重要な決定に関わらなければならないというのは、責任が重すぎないか。
- A 確かに責任はあると思いますが、やはり保護者の代表として選ぶ場合は、P T A 会長さんが相応しいと考えています。
- Q P T A 会長など各代表の委員に対しては、しっかり意見集約を求めていたか。
- A 事務局からは事細かにそのような指示はしていなかったかもしれませんが、情報の周知についてはお願いをしていました。
- Q 保護者も地域の人何も知らされていない中で統廃合が決まること自体、その有効性が問われると思うし、統廃合の進め方に瑕疵があると認めるのであれば、協議は一からやり直しということになると思うが。
- A あくまで検討協議会での決定事項は尊重すべきものと考えていますので、協議のやり直しは考えていませんが、そのようなご指摘があったことに関しては、今後の検討協議会の場でお伝えするつもりです。

Q 学区の見直しを部会で議論する前に、これだけ東中廃校の決定に対して疑義が出ているのだから、もう一度検討協議会の場で議論し直すべきではないのか。

A そのようなご意見があったことは報告しますが、あらためて議論するか否かは、あくまで検討協議会の中で判断してもらうことになります。

Q 多数決や全会一致など明白な基準のない中で、検討協議会では、ただ「はい」という同意の声を以てして東中の廃校を決定したということか。

A 決を採ったわけではありませんが、検討協議会の中で合意を得たということで理解しています。

Q そもそも明白な基準のない中での意思決定は無効だし、委員の選考の仕方も曖昧、決定のプロセスも曖昧だから、こういう誤解を招いてしまっているのではないのか。

A 検討協議会の中でお互いに議論を重ねながら、委員の皆さんのご理解をいただく中で決めていきたいと考えていましたので、決定の方法が間違っているとは思っていません。

Q 第6回の検討協議会で東中を廃校にすることが決まっているが、その前の第5回の会議の段階で、次で対象校を決めるということになっていたのか。

A 明確に決めていたわけではありませんが、東中と中央中の2校のいずれかに対象校を絞り、第5回の会議の場で、今回は事務局から統廃合の対象校について具体的な提案を出すというところまで踏み込んでいますので、第6回で大体決まると見るのが一般的かなと思います。

Q 「狭山市中心市街地活性化基本計画」には、中心市街地の人口を5年間で約200人増やすとの指標が示されているが、そういった人数は統廃合の生徒数の推計資料に加味されているのか。

A それは加味していません。

Q 人口増を見込んだデータを資料として出さないのは何故か。

A 出さないというか、増える見込みの200人すべてが生徒ということでもないと思いますので、なかなか数字として出せないといった面はあろうかと思います。

Q 生徒の数が増える可能性があるにもかかわらず、そのことは検討協議会の場で議論されなかったのか。

A その点については、検討協議会の当初に委員の方からご指摘があり、そういったことも踏まえたうえで、統廃合の必要性ありとの合意を得たものと考えています。

Q 生徒数が減る見込みのデータだけを基にして結論を出すのはおかしいので、生徒数が増える可能性があるということを考慮したうえで、改めて議論し直すべきではないのか。

A いずれにしても、検討協議会の中で判断してもらうことになると思います。

Q 検討協議会で提示された㊦案があったからこそ東中の廃校で合意したにもかかわらず、部会でその案を一度白紙にしているのであれば、㊦案を根拠に合意した東中の廃校自体も白紙に戻すべきではないのか。

A ㊦案は㊢案もしくは㊣案として残していますので、白紙に戻したわけではありません。㊦案があったからこそ東中の廃校で合意した経緯があるといった意見もありましたが、会全体としては、学区については改めて部会を設けて検討し、最終的に検討協議会に諮って決定するということを決めたということです。

Q 部会で決まった案が㊢案もしくは㊣案でなかった場合は、検討協議会で東中廃校の方針が変わる可能性があるという理解でいいか。

A 検討協議会でそういった議論になるかどうかは分かりません。

Q 今年度の検討協議会は、いつ開かれるのか。

A 11月頃には開催したいと考えています。

Q 今年度の検討協議会も、昨年度まで出席していた東中の前のPTA会長が参加するのか。

A 個人としてお願いしているわけではありませんので、今年度の検討協議会は現在のPTA会長さんに出席をお願いする予定です。

Q 検討協議会に小学校のPTA会長は参加するのか。

A 関係する小学校のPTA会長さんにも参加をお願いする予定です。

Q 市の職員がPTA会長として出席していると聞いているが、問題はないのか。

A あくまでPTA会長の立場としてご発言いただいていると、こちらとしては考えています。

- ◆ 検討協議会における合意の経緯に皆が不信感を抱いているのだから、学区の見直しの話にまでいかないのは当然。

- ◆ 保護者の意見は、検討協議会に伝えるだけで終わりにするのではなく、そこでしっかり議論してほしい。
- ◆ 統廃合の対象校を決める時には、本来は事前の会議の場でその旨を明確に伝え、委員に対しては各団体で十分に話し合っておいてくださいとお願いしておくべきだ。
- ◆ 各代表の委員に意見の集約を求めるのであれば、本来は会議を始める前にその事をしっかり周知しておかなければならないはず。
- ◆ 意見の集約のない中で委員に重要な決定を求めるのは酷だと思う。
- ◆ 生徒の数が増えた場合、中央中に入りきらなくなるリスクがあるにもかかわらず、そういったリスク管理に対する議論すら何も行われていない検討協議会というのは、質が低すぎる。
- ◆ 統廃合の当事者である小学校の保護者が含まれていない中で、東中の廃校が決まるのは道義的におかしい。
- ◆ 小学校のPTA会長を入れていなかったことを理屈で曲げようとしても誰も納得はしないはず。
- ◆ 保護者説明会は、検討協議会や部会での決定事項を報告する場なのだから、会長は説明会の場に当然出席していなければいけない立場だと思うし、今のままでは、密室での協議を事務局がただ説明しているだけというニュアンスでしか受け止められない。
- ◆ 密室の会議と思われなくても、検討協議会や部会が傍聴できることは、もっと積極的に周知すべきだ。
- ◆ 生徒の数が増えるケースも想定して議論しなければ、今回の合意は推測の域を出ない中での合意でしかない。
- ◆ 利害が絡む人を入れると話が拗れやすいとは思いますが、その人たちの了解を得ずに進めてしまうと、後でもっと拗れてくると思うので、教育委員会が地域の敵にならないためにも、もっと丁寧に議論していくことが大事だと思う。

### **耐震に関すること**

Q 市議会で東中廃校の議案が否決された場合は、耐震工事をしてくれるのか。

A 否決された場合は、東中の耐震工事を実施します。

Q 東中は耐震工事をしなければいけない状況が明らかなのに、統廃合の対象になっているということで、危ないのは分かっているけど、目をつぶって何も手を付けないということか。

A 財政的なこともあり、申し訳ありませんが耐震工事を先送りしているというのが現状です。

- ◆ 統廃合を理由に子ども達の安全が蔑にされていいものなのか。
- ◆ 危険を認識しているのに耐震化を怠っているのであれば、そのことで子ども達がケガをした場合は、市に責任があるということだ。

- ◆ 多少税金の無駄遣いになったとしても、子ども達のためになるのであれば問題にはならないと思う。
- ◆ 東中に通わせている子どもの親じゃないから、廃校にする学校に耐震工事のお金をかけるのは無駄だという考えになってしまう。
- ◆ 確かに校舎が倒壊する可能性は低いと思うが、最も懸念するのは上からモノが落ちてきてケガをすることなので、そのあたりの安全確保には万全を期してほしい。
- ◆ 校舎が倒壊しないなんて言いきれないのだから、今すぐにでも東中は耐震工事をすべき。
- ◆ 東中は現実的に外壁がボロボロ剥がれ落ちる状況にある中で、ただ場当たりの補修だけで、市内でも古い部類に入る学校に手を付けず、後から建てられた学校の改修や耐震化を先に進めるなんてことは常識的にありえない。
- ◆ 耐震工事をしていない校舎に子どもを通わせるのは、親としては不安でしょうがない。
- ◆ 適正規模が確保されている東中を急いで廃校にしようとする理由は、結局は耐震工事にかかるお金がないということだ。
- ◆ 耐震だけでなく冷房のことも考えてほしい。
- ◆ 教育委員会には頑張ってもらって、耐震工事の予算を確保してきてほしい。

### 学区に関すること

Q 提示されている四つの学区の見直し案以外の案も考えられるのか。

A この四つの案の中から決めるつもりですが、今後の学区部会の協議の中で、委員の方から他の案が提案される可能性はあります。

Q マルエツの前の通りを境に中央中と狭山台中に分けるといった案が以前に出されていたが、現状の方向性としては富士見小の子ども達が分散されることはないということか。

A 現在検討している四つの案の中に、富士見小の子ども達が分散するケースはありません。

### その他

Q 市議会における重要案件の議決に関しては、3分の2以上の同意を得る必要があると思われるが、廃校の決定についてはどうなのか。

A 学校の廃止に関わる学校設置条例の改正については、過半数の同意で決定されます。

Q もし市議会で東中廃校の議案が否決されたら、もう一度どの学校を廃校にするかを最初から検討し直すということか。

A そういったことも含め、その後どうするかについては改めて検討することになると思います。

Q アンケートの実施については。

A 廃校の賛否を問う形のアンケートを行う考えはありませんが、統合に向けた検討課題などについて、今後アンケートにより保護者の皆さまからご意見をお伺いしたいと考えています。

Q 教育委員会ではなく、地域なりで独自で統廃合に関するアンケートを取ることに付いては、何ら問題ないという理解でいいか。

A 問題はありますが、教育委員会としては生徒を介してのアンケート聴取は避けてもらいたいと思っています。

Q ホームページを見られない人もいるので、統廃合の情報は書面でも出してほしい。

A 要請があれば個別に対応しますが、PTA会長さん等とも相談のうえ、書面での配布も今後検討したいと思います。

- ◆ 担任の先生や部活の顧問の先生が変わっただけでも子どもに多大な影響を及ぼすことを、よく理解してほしい。
- ◆ 部活で戦っていた中学校で、統合するから4月からは一緒にと言われても、うまくいくはずない。
- ◆ 子ども達の間揉め事は先生たちの見えないところで起きるもので、大人が子ども達の精神的なケアをしなければならぬというが、そんな簡単なものではない。
- ◆ 自分の学校がなくなるということがどれほど苦痛か、心のケアの観点から捉える必要がある。
- ◆ 中心市街地の人口を増やすとしながら、子どもの数の減少を理由に統廃合を進める市の施策は矛盾している。
- ◆ これだけ駅前開発を進めているのだから、今後子どもの数が増えないとは思えない。
- ◆ 決めてしまったことでも、いったん立ち止まって再検討して、やはり止めるといった判断もあっていいと思う。
- ◆ 保護者説明会は小中学校合同で開催した方がいい。
- ◆ 教育委員会は、子ども達や保護者の気持ちに寄り添ってくれるところだと信じたいので、今日の意見はしっかり受け止めてもらいたい。
- ◆ 東中廃校の是非についての教育委員会とのやり取りは、ただ平行線を辿るだけ。小学校の説明会で今日と同じようなやり取りを聞かされてもしょうがないので、教育委員会は、そういった保護者が抱く疑問や意見は個々に受け付けて、電話なり窓口なりで随時回答するようにしておいてほしい。